

# 1.26 全学統一団交(1)に結集せよ!

な之崩しの正常化=給与直の路線=不年代帝国主義的市民社会再編

政策貫徹を断乎粉砕し、更なる闘いの炎を捲き起さう

全市大の学友諸君、院生諸君、我々は早くも冬眠するのだろうか。冬は厳しく重苦しい。北風が炎を消えうとしている。だけど決して羽してしまっはならない。風が強ければよけいに燃えなければならぬ。大学当局の風はますます強い。学友諸君、今正常化といわれる中で一体何が行われようとしているのか、君達自身もう一度問い直してほしい。一〇四導入。一〇八学生大会一〇七三項目禁止条項、我々の意志を全く無視し何の改革もないままの授業再開。一〇七の背後には一貫して四がいた。四は何のために大学に居るのだろうか。二四物皿クラス討論への四導入。二八団交要求デモへの弾正。常駐はまさに少くとも良心的な学友に対する徹底的な弾圧のため以外の何物でもない。改革の意志を持つ者の在野以外の何物でもない。我々の論理に對し方ではか対応できない大学当局、これが大学なのだろうか。大学とはこんなものではないはずだ。一切の決定権は今数名のタカ派ボス教授の手に握られている。医学部ではあるえげつないわさも流れている。我々はこれまで以上のような大学当局の態度を追求すべく、全学的な意志決定権を握っている学長と協議会に對し一貫して団交を要求してきた。そして度重なる予備折衝を通じて、不十分なが団交を確約させた。大衆団交とは大衆の前で大衆自身が自らの主体性に基づいて自発的に意志決定に参加するといふ直接民主主義を意味する。同時にこれまでの種々のハレニナな態度を自己批判させ、これがまことに大学改革の第一歩であるといふことを、

確認しようではないか。学友諸君、全学の全ての闘う者による全学団交に結集し、自らの大学の構成員であるという権利を主体的に行使しようではないか。自ら真の大学教員としての第一歩を進めようではないか。共に決起せよ。

一時 専門講堂

## 経入快